

## 『サートリス』における動と不動

森 岡 力

### I. 序

*Sartoris* のテーマは人々に対する過去の影響、魅力的な過去へのノスタルジアであると多くの人々が言っている。また、フォークナーは *motion* を描くために *un-motion* を描いていると言われる。フォークナーは小説の表現方法として *contemplation* のために *stopping motion*<sup>(1)</sup> から始めている。それと密接に関係があるのはカウンターポイント的手法である。それは詩、短編、小説と一貫して実験的に続けられている。

小論では *Sartoris* を変化に応じていくものと、それに抗していくものとを *motion* と *un-motion* の観点からみてみたいと思う。

### II. *motion*

#### A. 自然の変化

南部の独得の風土、四季によって変化する自然、生物が繰り返し描かれている。それはキーツの詩の中のギリシャの壺の表面を永遠に動くように大きなゆっくりとした *motionless*<sup>(2)</sup> に見えるくらいの *motion* である。「土の匂い」<sup>(3)</sup> がすると言われるくらい、色彩、特に匂い、音によって南部の土地に根ざした *motion* が表現されている。

Behind him the earth rolled away ridge on ridge blue as

woodsmoke, on into a sky like thin congealed blood...into the sun that spread like a crimson egg broken on the ultimate hills. That meant weather; he snuffed the still, tingling air, hoping he smelled snow. (p. 306)<sup>(4)</sup>

若ベイヤードが一時サートリス農園に帰り、農作業や狩猟をしたりして充実した生活を送り、健康を回復する。しばらく大地が彼をとらえている。土と接触する生活は彼を健康的にしている。彼は日の出とともに起き、作物の植え付けをし、その成長を見守る。

..., and came in at mealtimes and at night smelling of machine oil and of stables and of the earth, and went to bed with grateful muscles and with the sober rhythms of the earth in his body and so to sleep. (p. 203)

しかし、春から夏になり、植え付けの時期が終わると若ベイヤードと大地のリズムとの partial assimilation<sup>(5)</sup>は終わる。

## B. ナーシサ・〔ベンボウ〕サートリスとヴァージニア・〔サートリス〕デュ・プレ

ナーシサ・ベンボウの場合をみってみる。ジェニイ叔母の仲介もあつたりして、ナーシサ・ベンボウは若ベイヤードに恋し結婚する。彼女の愛情で若ベイヤードの時の流れの中に生きることができない絶望感を和らげようとする。なんに対しても愛情を持つことの出来ない若ベイヤードを変えようとする。彼の気持ちも一時和らぐ。

Far above him now the peak among the black and savage stars, and about him the valleys of tranquility and of peace. (p. 254)

ベンボウ家はサートリス家と同じくらいジェファソンの名家である。ナーシサは育った環境の違い、生来の自己中心性のために妻として若ベイヤードの気持ちを理解するに至らない。若ベイヤードの死と同時に彼らの息子は生まれる。彼らの息子はジェニイの予想に反し、ジョンではなく、ベンボウ・サートリスと名づけられる。ナーシサはサートリス家の男たちの戦争に行つては無謀に戦死する宿命を避けようとしている。

ジョン・サートリスの妹ヴァージニア・デュー・プレ（ジェニー叔母）はサートリス家において彼女に降りかかってくる諸事を強い意志で処理する。若ベイヤードがメンフィスから自動車を買ってくるとアイソムと最初に試乗したり、老ベイヤードに近代的医療を勧めたりしている。彼女には新旧両方の価値も認めるサートリス家の男たちに欠けている flexibility がある。サイモンや老ベイヤード、若ベイヤードの世話をしたりして過去との連結<sup>(6)</sup>、過去と現在の有効な調和<sup>(7)</sup>の役をしている。

しかし、ナーシサはジェニイの問いにも答えずピアノや読書に気を向けている。南部淑女の体裁を守ろうとするところがある。ジェニイはジェブ・スチュアート将軍とその副官ベイヤード・サートリスの南北戦争での行動を美化して話し、サートリス家の伝説作りの役をしている。彼女たちは *The Sound and the Fury* において、ベンジーの良き理解者であり、兄クウェンティンの最愛の妹であったキャデイと違いがある。キャデイは親の意に反して大農園貴族の名誉、誇りに固執しない。そして、コンプソン家の patterns が現在の状況や、人々の精神の要求に合っていないかを示している。ジェニイとナーシサは滅亡しかかったサートリス家の一員であつて、フォークナーの作品の多くの女性たちのように自然界に働いている forces<sup>(9)</sup> に応じているように思われる。

### C. 社会的変化

社会的な変化 (external flow of event<sup>(10)</sup>) としては土地所有に基づいた生産から利益を生むプランテーションではなく他人の金を動かして利益を得

る農商銀行が登場している。仕事場の形態も農商銀行は家内労働的職場ではない。老ベイヤードも馬車で家から自分が頭取をしている銀行に通っているように職住の分離も行われている。

現代において産業の発展、便利さとスピード、その反対に公害をもたらことになる自動車、汽車、飛行機が描かれている。これはパストラルな静けさを破り騒がしい世界が出現する歴史の侵入が描かれている。

An automobile passed along the smooth valley road, slowed for the railway crossing, then sped on. Before the sound of it had died away the whistle of the nine-thirty train drifted down from the hills.  
(p. 42)

新興のスノープス一族が田舎小農民が下から上昇して行くパターンはサートリス、サトペンと同じである。フレム・スノープスは農商銀行の副頭取になっている。しかし、概して彼らは倫理的価値基準を持たず物質主義的である。サートリス家の地所が分益小作人によって耕作されたり、その一部がフレム・スノープスの所有になる。スノープスの一族はサートリスによって代表される旧農園貴族の秩序に代わる存在になっている。

経済システム、運輸手段、社会を構成する人々の階層の変化によって旧南部の「北部化」<sup>(11)</sup>、新南部化が行われている。

### III. un-motion

#### A. violent なもの

un-motion は violent なものと、passive なものとに分けられる<sup>(12)</sup>。若ベイヤードはドイツを中心とする新興勢力とイギリス、フランスの旧勢力の対立が原因である第一次世界大戦から、負傷することもなく、そのために負い目を感じながら伝統的な南部社会に帰還する。それから、彼はロースト・ジェネレーションの虚無的な生活をしている。彼の傷は精神的なもの

である。現在のサートリス家、ジェファソンに安らぎを見いだすことは出来ない。

ベイヤード・サートリス二世（老ベイヤード）の孫のジョン三世は若ベイヤードが止めるのも聞かず紙鉄砲の様な飛行機に乗り込み、第一次世界大戦で若ベイヤードの眼前で撃墜され戦死する。一方双子の若ベイヤードは戦後故郷に帰って来て、ジョンの死を阻止できなかったこと、自分が戦死しなかった事が精神的衝撃となり、自己破壊的行動を続ける。過去のその時に戻り現状を変更したいと思う。意識は時間の流れの中で働く肉体と逆に過去を指向することになる。精神の作用と体の作用が分離している。<sup>(13)</sup>

若ベイヤードは、慣らされていない雄馬から落馬し頭部に負傷する。ジェファソンに帰郷し、すぐにメンフィスで競争用自動車を買って雷鳴のような警笛を鳴らし、スピードをあげて走る。忠告も聞かないで飛行技術革新用の飛行機に乗り、墜落死をし、ジョン・サートリス、ジョン三世のような無謀な死をくり返している。

ジョン・サートリスを代表とするサートリス家の祖先が有形無形に若ベイヤードに破壊的に影響している。

...what with the virus, the inspiration and example of that one which dominated them all,... (p. 375)

*The Sound and the Fury* のクウェンティン、*A Rose for Emily* のエミリーの変化に対する抵抗の仕方を見てみたい。

*The Sound and the Fury* のクウェンティンはコンプソン家の名誉を象徴する姉キャデイにボーイフレンド、ドルトン・エイムズが関係を強要したのであり、彼を愛していないと言うように求める。彼女の純潔を奪ったのは自分だと虚言を言う。コンプソン家の罪にしてしまう。彼は性的なものを表す honeysuckle (スイカズラ) の複雑な匂いを嫌う。彼は変化をもたらす時の象徴、時計を壊したり、彼の分身の影を踏みつける。ついには自

分の意識を止める。彼の意識において変化を拒絶してるが自己逃避している。

*A Rose for Emily* のエミリーはサートリス大佐が既に死亡していて、サートリス大佐の税金を払わなくても良いという約束は無効だと言う町の人々の忠告を聞き入れない。ホーマー・バロンを恋人として永遠にとどめておく彼女の行為は現実と幻想の区別が無くなって自らも死ぬとすることを理解しない狂気であるが彼女は悲劇的のヒーローに似た点を持っている。

クウェンティンとエミリーは変わっていくものなかで変わらないものを自分の意志で求めようとしている。若ペイヤードはサートリス家の伝統が行動の規範となり、その犠牲になっていると思われる。

## B. passive なもの

### 1. nostalgic reverie<sup>(14)</sup>

ホレス・ベンボウは YMCA の非戦闘員部隊の一員として参戦し、花瓶を作る坩堝とレトルトを持って帰郷する。彼は家系の伝統に従い弁護士になるのは弁護士業そのもよりは、かびの臭いがする法律事務所に戻る事であった。実際には、本来の彼の仕事と言えるものをしないで現実の生活に関わっていかない。

ガラス吹き of 道具でキーツの詩の壺のような美しさを持つ花瓶を作りたいと考え、作りあげた花瓶を妹と区別せず「いまだ汚されざる静寂の花嫁よ」と呼んだりする。彼は詩的な表現を好んで用い、日常生活においても夢想家的である。現実の世界に幻滅を感じ、古き変わらざる日々に安らぎと静けさを見いだす。それは後退現象であり、過去のある時点を賛美しようとしている。

The meaning of peace. Old unchanging days; unwinged perhaps, but undisastrous, too. You don't see it, feel it, save with perspective. (p. 175)

老ベイヤードとフォールズ老人は死者と霊的交流をする。老ベイヤードのかつての友人、フォールズ老人は老サートリスの銀行の部屋にジョン・サートリスの霊を連れ込んでいた。老ベイヤードは耳も遠く、自ずと現代の騒音を排除でき、過去の、ジョン・サートリスの時代 (dead period. p. 1.) に繋ぎ止められている。

...where the two of them, pauper and banker, would sit for a half an hour in the company of him who had passed beyond death and then returned. (p. 1)

サイモンもサートリス大佐の霊と話をする。亡きサートリスに自動車に乗り回しているサートリス家の者を叱りつけるよう、頼んでいる。

Quite often these days Isom could hear his grandfather talking to John Sartoris as he labored about the stable or flower beds or lawn, mumbling away to that arrogant shade... (p. 113)

## 2. 現代的なものを拒む

ベンボウ家の前にも杉木立や色々な草花の花壇があった。ベンボウ家にはサリー叔母さんが同居している。1901年以後に起こった事には心を閉ざし、彼女の世界には自動車のきしる音は入り込んだ事はなかった。

老ベイヤードは、産業の進歩を腹立たしく思っている。老ベイヤードは自動車を好まず、自動車を持っている人にはお金を貸そうとしない。サートリス農園から銀行に行くのに使用しているのはサイモンが御している馬車である。サイモンはアイソムが若ベイヤードと自動車の遠出から帰ってきた時、革紐でひっぱたく。彼は自動車という機械に嫌悪感を持っている。自動車は貧乏人、愚か者の乗り物で馬車は紳士の乗り物だと言っている。サイモンは近ごろでは quality folk の習慣やマナーが失れ、昔の時代が失

われているのを嘆いている。

ピーボデイ医師は若ベイヤードが落馬し負傷した時、瓶から一口を飲ませて家に帰らせる。老ベイヤードの顔の吹出物治療法について若いアルフォード医師は手術を、ウィル・フォールズは軟膏を塗ることを勧めるが、彼は、聴診器あてて診て、何にもしなくて良い、放って置けば良いと言う。ジェニィはこれに対し、「私達はお医者さんの所へ行きます」と言って科学的な治療をしないピーボデイを医者と見なしていない。機械や科学的なものの出現によって昔の良きものが失われることを批評している。

### 3. backwater image<sup>(15)</sup>

レイフ・マッカラムは時代の変化に流されることもなく、ジェファソンの町から離れた丘陵地帯に住み、森で狩猟したり、健康的な、生き生きとした質素な生活を送っている。マントルピースの上には正確な時間を示さない時計がある。時計の時間ではなく、彼らの時間で生活している。

...on the mantle above him the clock sat, deriding that time whose servant it once had been. (p. 310)

そこでは人々の間に精神的つながりや相互扶助の気持ちがある。貧しい自作農民のレイフ・マッカラムは若ベイヤードが慣らされていない雄馬から落馬し負傷したときピーボデイ医師の所へ治療に連れて行く。そのあと若ベイヤードの家に送る途中ハブの農家に寄りスアラット、ハブ、若ベイヤードの間でウィスキーの入った土瓶を回す。

...the three of them squatted in a small bowl of peacefulness remote from the world and time, ... (p. 139)

若ベイヤードに対して黒人たちは自然な善良な気持ちで接している。ラバの引く馬車で通りかかった黒人父子が自動車ごと橋下に落ちていた若ベ



イヤードを助け上げる。かれらは若ベイヤードを荷馬車に乗せ顔に日が当たらないように帽子をかぶせたり、嘔みタバコを与えたりしてサートリス家まで送る。

また別の場面では冬の夜、若ベイヤードはマツキヤラムの家を出て道に迷い、黒人小作人の小屋で一夜の宿を乞うと彼は温かく受け入れられる。ぼろぼろの汚れた黒人の体臭のついた掛け布団を提供される。礼の言葉を言って、それを掛けて眠りにつく。

-two opposed concepts antipathetic by race, blood, nature and environment, touching for a moment and fused within an illusion (p. 347)

農商銀行から離れたサートリス農園においても家族的である。老ベイヤードは、サイモンがバプテイス教会の建築資金を流用し返済することができなかった時、老ベイヤードに援助を求める。老ベイヤードはビター文弁済しないと言っていたが結局サイモンに代わって払ってやる。老ベイヤードはサイモンを家族同様に保護している。

-old Bayard's stormy rage and Simon's bland and plausible evasion, rising and falling on the drowsy Sabbath air. (p. 276)

郡の人なら誰でも良く知っているピーボデイ医師は40年前から帳簿はつけていない。昔から白人・黒人を問わず往診し、往診料はトウモロコシ、果物、食事、草花の球根等物納であった。土地の者が昔の債務を払って行くが彼はとくに忘れていない。彼は、部屋代、食費のことは考えなくても余生は送れるだろうと言われている。

これらは「土着の場における世の中の単純な生活原理（もしくは楽しみ<sup>16)</sup>に）」に関わるものである。時の本流からそれた所に弊害が生じているこ

ともあるが、破壊から免れた永続的な価値が残っている場合がある。

#### IV. ま と め

サートリス家を含むジェファソン、南部は銀行、産業を導入し変わることで、パストラルなものを壊すことで再生しようとしている。南部は変わらざるを得ないからこそ人々の the Time of consciousness<sup>17)</sup>が重要である。そこにおいて真の意味を探ることができる。現在より良きものへの変化の、現在よりは良きものをとどめようとする動機はそこにおいてである。

ナーシサ、ジェニイはサートリス家において変化に従っている。一方、若ベイヤーは現在よりは、過去の一点に action によって帰ろうとしている。ホレス・ベンボウは action を言葉に代え、夢想家的傾向がある。un-motion において抵抗的内面状況を現し、motion において外部変化を現しているように思える。フォクナーは作品の中において order を求めつけた。

Sartoris において、初めて、フォークナーは悲惨と光栄の祖先の歴史を探り、現在において自己確認をしようとした。<sup>18)</sup> Sartoris は *The Sound and the Fury* のベンジー、クウェンティンとキャデイのような劇的対照はない。それぞれの章と章においても *The Sound and the Fury* の I, IV 章と II, III 章程対立もない。Sartoris は後の作品に出てくるいろんな人物類型、テーマ、手法、雰囲気が現れていて、a threshold novel<sup>19)</sup>となっている。

#### 注

##### I

- (1) Richard P. Adams, *Faulkner: Myth and Motion* (Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 1968), p. 16.

##### II

- (2) Karl E. Zink, "Flux and the Frozen Moment: The Imagery of Stasis in Faulkner's Prose," *PMLA*, LXXI (1956), P.287.

- (3) W. フォクナー, 齊藤忠利訳『サートルリス』(東京, 富山房, 1978), 457頁。
- (4) William Faulkner, *Sartoris* (New York: Random House, 1956). 以下ページ数はこの版のテキストのものである。
- (5) Adams, p. 54.
- (6) Cleanth Brooks, *William Faulkner: The Yoknapatawpha Country* (Yale University Press, 1963), p. 102.
- (7) Olga W. Vickery, *The Novels of William Faulkner* (Louisiana State University Press, 1964), p. 25.
- (8) Robert Penn Warren (ed.), *Faulkner* (Englewood Cliff, N. J.: Prentice Hall, 1966), p. 103.
- (9) Edmond L. Volpe, *A Reader's Guide to William Faulkner* (Farrar, Straus and Giroux: New York, 1964), p. 71.
- (10) Zink, p. 300.
- (11) フォークナー, 『サートルリス』, 467頁。

## III

- (12) Adams, p. 53.
- (13) 『アメリカ文学研究』5 (1978), 22頁。Adams, p. 13.
- (14) Karl F. Zender, *The Crossing of the ways*, (New Brunswick and London: Rutgers University Press, 1989), p. 142.
- (15) Zink, p. 290.
- (16) 大橋健三郎『フォークナー研究1』(東京南雲堂, 1977), 155頁。

## IV

- (17) Zink, p. 301.
- (18) Judith Bryant Wittenberg, *Faulkner: Transfiguration of Biography*, (Lincoln and London: University of Nebraska Press, 1979), p. 62.
- (19) Volpe, p. 76.